

# 都市の幼稚園と幼児の保健

青木醇一

私は幼稚園教育の實際に就ては全く無經驗である、従つて幼稚園教育に就ては殆んど何等の知識もない。が併し幼児を幼稚園に託して居る保護者の一人として、幼稚園に對しての色々な希望をもつて居る。で殊に希望して止まないのは、幼稚園に於ては何よりも幼児の健康に最も注意して頂き度いと云ふ事である。そして私は、この事は實に幼稚園教育の最も重要な目的の一つでなければならぬと信じて居る。殊に東京とか大阪などの如き大都市に於ける幼稚園では、特に此點に向つて周到な注意が拂はなければならないかと思ふ。我國の大都市に於ける幼児の死亡率の多い事

は、既に識者の等しく認めて憂慮して居る處であるが、單に死亡率のみならず、罹病率又は虚弱兒等を、精細に調査したならば、其の數の如何に夥しいかに驚かされるであらう。これ等の原因は勿論種々の點に存するであらうが、都市の生活が極めて非衛生的であつて、殊に幼弱な小兒の健康に著しく悪い影響を及ぼしておる事も考へなければならぬ。都市生活では斯様な事はある程度まで止むを得ぬ事であるかも知れぬ、しかし之は決して止むを得ぬ事として放任さるべき問題ではない。局に當つておるものは、發育期にある幼弱な小兒の爲めに適當な衛生施設を行ひ其の健康をすゝめ

て行く事に努力せねばならないと思ふ。

都市に於て幼児の健康に對し最も遺憾な點は日光と空氣に關する問題であらう。現今の狀態では少くも東京などでは、幼児が戶外に出て遊ばうとしても遊び場がない、小兒の爲めの遊園の設備などは、仲々今の處出來そうにもない。止むを得ず子供は道路で遊ぶ事になる、道路は電車、自動車、自転車などが砂塵を捲き上げて疾驅して居る、更に危険なばかりでなく、塵埃の多い空氣を呼吸する爲めに、繊弱な小兒の呼吸器の粘膜は其の刺激で傷けられる、或は、遊び場がないから自然幼児は室内に引込み勝になる、従つて運動が不足になる、日光に充分浴する事が出來ない、室内の不潔な沈滞した空氣の中に生活せねばならぬ。小兒の顔色が蒼白くなり、身長のみが徒らに細長くなるのも亦止むを得ぬ次第である。

斯様な理由から、都市の幼稚園に於ては特に大

きな遊園が欲しい。出來得るならば日光の射入を妨げぬ程度に、周圍に樹木も植ゑ度い。そして夏は綠蔭の下に強烈な日光を避け得る様に、又道路などから吹き込む塵埃を防ぐ様にしたい。尙遊園には運動場の設備を整へる外に、草花の園や、小丘や、芝生や又は砂場等を設ける必要がある。小兒のためには單なる殺風景な運動場丈ではいけない。そして出來得るだけ遊園を利用したい。少くとも晴れた日、風の靜な日、暖かい日は多くの時間を遊園で保育して頂き度い。五月の温かい麗かな日に遊園に小兒の影を見ない様ではいけない。お囃は綠蔭の下でもよい、温かい日を浴び乍ら砂の上でも妙である、否むしろ戶外に出られない、雨のしとく降る靜な日を選ぶがよい。斯うして温い日や新鮮な空氣に浴して居る間に、小兒は顔色は美しくなってくる、元氣に快活になつてくる身體は丈夫に發育してくるのである。兎に角私は、

戸外保育の時間の一時間でも多い事を望む。たゞ雨の外に風の強い塵埃の多い日は戸外はいけな  
い。

何故戸外保育の時間を多くしたいか。幾度もくり返して通る通りよく日光に浴し、新鮮な空気を呼吸しそして運動を盛にしたからである。

日光はあらゆる生物の健康や發育に、或は又其生活機能を營む上に、偉大なそして微妙な力と作用とを以て居る。手近い例は植物を見るが一番いゝ。かの暗い日蔭に生えた草木は、直接に天目を仰ぐ事が出来ない爲め、生々とした緑色を帯ぶる事が出来ないで、葉も莖も弱々しく、そして黄色に褪色して了ふのであるが、反之、麗かな五月の太陽を満身に浴びて育つ植物が、滴るばかりの翠緑に其の美しさと力強さを示して成長するのを見ても、如何に日光の作用が偉大なるか判る。人類に對しても同様である、殊に發育期にある幼

弱な小兒にとつては尙更である。日光の麗かな日には人の精神は何となしに爽快に感ずるが、曇つた、うす暗い日には陰鬱に感ずる、これは日光の人の精神に及ぼす不可思議な力である。春の野を耕す農夫の顔色が黒光りに光つて血色のいゝのも日光の皮膚や血液に及ぼす作用である。明るい處におかれた蛙は、暗い處におかれた、蛙よりも、炭酸瓦斯の排泄が著しく多いと云ふが、之は日光が動物の新陳代謝に影響をもつておる事の證據であるが、恐らく人に對しても同様な影響があるであらう。腺病質の小兒に對して、日光浴が偉大なる治療的效果をもつておると云ふ事は、古くより知られた事實である。日光の直射するところではあらゆる病原菌が、短時間内に死滅することもよく人の知る處である。斯様に日光は人の健康に重大なる關係をもつて居る。日光に浴する時間の比較的少い都市の幼兒は成る可く戸外に出て適度に

日光に浴する必要がある。

空氣は一瞬と雖も吾々の生存に缺くことの出来ないものである。しかし不潔な空氣は屢々幼兒の健康を害ふ事がある。室内の空氣は多數の幼兒の呼吸によつて炭酸瓦斯や其他有害な瓦斯が多くなり易い。又衣服、靴、床板などから塵埃がたつたで兎角不潔になり易い、又時には危険な病原菌までも混じて居る事がある。それに窓でも閉ぢてある場合には空氣は全く沈滞して了ふ。これに反して、戸外の空氣は絶えず大氣の動搖があるので人の多い處でも炭酸瓦斯などの多くなる事はない、又殆んど病原菌などは浮遊して居ない、風でもなければ塵埃も少い。それに何時も空氣が靜かに動いて居るから、これが皮膚に適當な刺戟を與へる、従て皮膚は丈夫になる。又流れのある、そして常に溫度の變化のある空氣にふれておるので氣管や氣管支等の呼吸器の粘膜が自然と鍛練されて強く

なつて来る。

斯様な譯で、戸外に出る時間が多ければ多い程幼兒は健康になる筈である。日光の入らぬ家には醫者が入るとか、室内に閉ぢこもる時間と結核の罹病率とは正比例するかと云はれるのも尤もな話である。

尙戸外に出れば自然運動が多くなる、従て新陳代謝は盛んになる、食欲は増して来る、日中の適當な疲勞で夜は充分熟睡する事が出来る。

斯うして日一日と幼兒の健康は増し發育は進んで行く事になる。身體が健康であれば自然幼兒は快活になつてくる。幼稚園保育の重要な目的の一つは實にこゝにあると思ふ。私は重ねて戸外保育の時間を多くする事を幼稚園に希望する。